テーマコラム

「写真」だなぁ

ふちんかん

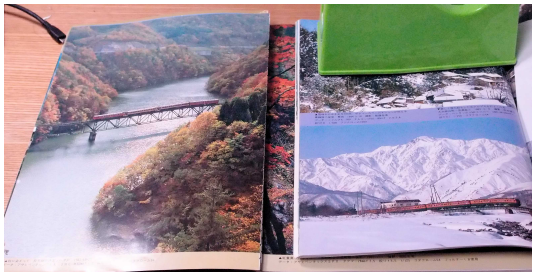
長年続けていることといえば、空を眺めるとか、旅行に行くとか、日々の生活であるとか、そういったことを記録する「写真」ということになる。

振り返ってみれば小学生の頃、東京に連れて行ってもらったときに、親父のカメラを借りたあたりから、私のカメラワークが始まった。そのとき使ったカメラは KONICA のハーフサイズ（一般的な 35 ㎜フィルムの１コマ枠に２コマ写す）カメラで、露出は自動だがピントは手動、しかも二重像合致方式という、今のヒトが手渡されてもすぐには使えないような代物だった。

その後、親父が会社から借りてきた PentaxME を使い出した。このカメラは露出は絞り優先オートのみ、ピントは手動だった。このころ鉄道趣味に目覚めたこともあって、私のテツは撮り鉄から始まった。大阪駅や新大阪駅で車両写真を撮ったり、生意気にも淀川橋梁あたりで走行写真を撮ったりもした。

高校生になって WOO の N さんに連れられていった撮影旅行で本格的に撮り鉄に没入。あちこちを旅するようになった。そのときのお供が PentaxMEsuper。このカメラは露出に絞り優先オートとマニュアルが加わり、少し露出のメカニズムを考えるきっかけとなった。フィルムはスライド用のリバーサルフィルムに挑んだ。これは雑誌掲載や保存性を意識したかなりマニアックな選択である。

大学生になってからも撮影旅行は続く。この頃使っていたカメラは PentaxLX、Pentax の最上位カメラであり極寒の北海道にも耐えたプロ仕様のカメラである。



☜鉄道ダイヤ情報というマニアックな雑誌に２度投稿し、２度とも掲載されたりしていい気になっていたりした。ただ当時から写真を職業としては考えられなかったな。

ライフワーク

前ページの写真から、鉄道写真といっても車両主体ではなく、風景主体の写真であることがわかっていただけるかと思う。就職するあたりからだんだんと日本の風景そのものが撮影対象と変化していく。このころついにオートフォーカス機に移行、Nikon801s である。しかしまだフィルムカメラである。

そして今から 21 年前(1996 年)、ついにデジタルカメラ導入。CASIO QV-30 である。手動切り替えの２焦点型のデジカメで、レンズ回転式というのが優れたギミックであった。まだ記録カードも普及していない時代なので、内蔵メモリのデータをシリアルケーブルで PC に転送していた。撮影してすぐに見ることができる、PC に転送すればすぐに原稿に貼り付けることができるというのは画期的であった。当時の原稿書きは写真を現像に出して、プリントしたものをあらかじめ空けておいた枠に貼り付けるという作業が必要だったのだ。あぁ隔世！

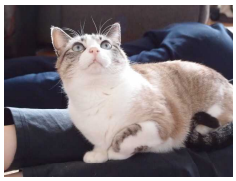
QV-30 は 27 万画素という今ならトイカメラにも負ける画素数だったが、Kodak DC-210zoom で 108 万画素、Nikon coolpix950 で 211 万画素とステップアップ。とくに Nikon の 950 は、フィルムカメラとして当然の基本的なことがちゃんとできる初のデジカメとして、エポックメイキングなカメラである。

これ以降購入した様々なデジカメで購入、このころに生まれた子どもたちの写真は、ほとんどがこれらのデジカメで撮影したものである。

そして 13 年前（2004 年）Nikon D70 を購入。ついにデジカメもレンズが交換できる一眼レフとなった。ここでフィルムカメラは終焉である。撮影対象は風景に加え、家族の写真の割合がどんどん多くなっていった。

現在の主力はマイクロフォーサーズ一眼の PanasonicG6 とコンパクトデジカメの OlympusXZ-1 である。

撮影対象は相変わらずの風景にネコが加わった。



（終）